

『パラリンピックの起源』

2021年7月、東京で2度目となるオリンピック、パラリンピックが開催されました。日々の熱戦を皆さんもテレビで見ても熱くなつたのではないのでしょうか。そこで今回は「障害者スポーツ（パラリンピックの始まりとデフリンピック）」についてお話ししたいと思います。

■パラリンピックの始まりは

リハビリ？

パラリンピックの発祥はイギリス、ロンドン郊外にあるストーク・マンデビル病院の医師ルードヴィヒ・グットマンが

1948年に院内で開催した車椅子アーチェリー大会だといわれています。この大会が毎年開催され、1952年から「国際ストーク・マンデビル大会」となり、1960年のローマオリンピックに合わせて開催されたローマ大会から「パラリンピック」と呼ばれるようになりまし。その病院は第二次世界大戦中の1944年、戦争で脊髄損傷となつた兵士を受け入れ、治療と社会復帰に取り組むための施設として開設されました。

1960年に日本のある整形外科医師がそこへ留学した際、車椅子バスケを医療に取り入れ、腕や



上半身の筋力を強化する訓練（リハビリ）を見て衝撃を受けました。多くの脊髄損傷患者がこれらの治療・訓練を経て半年で社会復帰していたのです。このことを日本へ持ち帰り、普及させたのが日本の障害者スポーツの発祥です。

そのため日本でリハビリテーションの概念が生まれたのも1960年頃。それまでは治療は安静第一、障害者は社会が保護するものという考えが主流でした。1964年の東京パラリンピックを契機に障害者スポーツの発展、障害者の社会復帰できる環境・施設づくりが進展し、現在に至ります。現代では障害を持ちながら一人暮らしをしたり、会社に勤めたりする人も多くいます。

最後に、パラリンピック以外にも一つ、障害者のためのオリンピックがあることを知っていますか？

■デフリンピック

私はパラリンピックを見ていて「聴覚障害の選手はいないのかな？」と思いました。パラリンピックには聴覚障害者も当然参加していると思っていましたが、調べてみると聴覚障害者用の競技種目はなく、参加選手もいませんでした。そこで出てきたのが「デフリンピック」です。「デフ」は英語の「deaf」で、「聴覚障害者（耳の不自由な人）」という意味です。デフリンピックはろう者のオリンピックとして夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストラリアで開催されています（パラリンピックより歴史が古い）。障害当事者であるろう者自身が運営する、ろう者のための国際的なスポーツ大会です。元々はろう者もパラリンピックに参加していましたが、コミュニケーション方法に違いがあること、デフリンピックの独自性を維持するという理由から1995年にパラ委員会を脱退。聴覚障害者は身体的ハンデが特になくことから、オリンピック大会に参加し、記録を残している選手もいるようです（日本選手はまだいません）。こちらがデフリンピックの競技種目です。

◆夏の公式競技（20競技）

陸上、バスケットボール、バレー、ハンドボール、サッカー、柔道、ビーチバレー、バドミントン、卓球、水泳、水球、テニス、空手、自転車、ボウリング、テコンドー、射撃、レスリング（フリースタイル、グレコローマン）、マウンテンバイク、オリエンテーリング

◆冬の公式競技（5競技）

アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリー、アイスホッケー、カーリング



以上、障害者スポーツについてお話させていただきました。

当院にけがや病気で入院し治療上、安静が必要な期間がありま。しかし安静だけでは筋力は落ち、骨も弱くなつて転倒・骨折する可能性が高くなり、負の連鎖となつてしまいます。体が怠いから動きたくない、動かしたら痛くなるから寝ていたいでは退院に時間がかかるためリハビリでは、運動を通し1日でも早く自宅退院・社会復帰のお手伝いをしていきたいと思っておりますので、よろしく

（永山 紗希）